



光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2015年12月号>

105号 2015.12.01 配信

早いもので、年の瀬も押し迫ってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。学園では、ヒマラヤ杉にイルミネーションが点灯し、正門からの木々にもライトアップがされています。

年末多忙の日々になりますが、お身体に気をつけて良き年をお迎えください。

■同窓会だより

●秋桜祭 11月14日(土)・15日(日)に参加しました。

[パネル展示]

◆「創立者 人見圓吉先生からのメッセージ」詩集『学園の歌』を通して

(『学園の歌』は詩人 人見東明の49年ぶりの詩集)

今年の展示は、49年間の沈黙を破って発表された『学園の歌』を通して、教育者圓吉先生を回顧し、穏やかで簡明な詩の一つ一つに込められている深い思いや、学生たちへのメッセージを読み取りたいと思いました。創立者である先生の学生や学園に寄せる思いは、教え子である私たちのみならず、100周年を間近に控えている平成の時代の学生たちの心にも届けられ、明日への道標となってくれることを願って取り上げました。

展示内容

【詩人・文学者としての人見圓吉】

創立者人見圓吉は明治16年に岡山県に生まれた。36年早稲田大学高等予科(文科)に入学。学友には北原白秋、若山牧水、土岐善麿などがいた。当初は東村のペンネームで雑誌『文庫』に詩を発表した。一方、学友らと詩社を興し文芸誌を発行して詩人として活躍。ペンネームを東明に改めた頃、早稲田の恩師島村抱月の勧めを受けて同窓の相馬御風らと共に、40年「早稲田詩社」を設立した。

この「早稲田詩社」とそれに続いた「自由詩社」の詩人たちは、小説に比べて言文一致での表記に遅れていた詩歌に言文一致体という新たな世界をもたらした。その理論を推進したのが御風であり、実作の中心であったのが人見東明で、「口語自由詩」と命名したのは東明自身であったとされている。

42年読売新聞社文芸部に入社、活動と創作の場をさらに獲得した。44年に詩集『夜の舞踏』を出版、白秋の詩集『思ひ出』と併称されたという。また、45年には島村抱月、中村吉蔵らの藝術座の設立にも関わった。(藝術座の看板女優に松井須磨子がいた。)

大正3年、日本女子大文学部卒業の村上緑と結婚。この年詩集『恋ごころ』を出版。この間、小説、エッセイなどを執筆して散文に移るかの傾向を示す一方、7年に女性文化の

向上を願って昭和学園の母体となる「文化懇談会」を妻である緑らと興し、月例の会を始めた。9年にはそれを発展組織化した学校「日本女子高等学院」を設立した。10年詩集『愛のゆくへ』を出版。以後「紙の上に詩を書くのをやめて乙女の胸に詩を書く」と女子教育に専念した。

【学園と共に半世紀 ～尽きぬ理想、自負と喜びを歌う】

「小石を拾う」、「T氏の名刺」、「営々として」、「女性文化」の4篇を取り上げ、圓吉先生への思いを述べた。ここに「営々として」を紹介する。

営々として

退勤の午後五時になると
わが席を近代文庫のなかに移し、
暗い窓のもとで書見する。

しらべることもあり、
書くこともあり、
時には腕をくんで
ひとりしずかにものを思う。

学校のこと、
同僚のこと、
学生のこと、
卒業生のこと、
たまにはなき妻や自分のこと。

友人、知人はもとより
現代の思潮、
日本の将来、
人類の福祉がどうなるかなど。

そしていつも
指を組み、
ふかいため息をもらす、
それが私の仕事であるらしい。

営々として実に
長い生涯を迎え、
碌碌として八十六年を送りつつ。

薄暗い部屋の中にこの窓から差し込む赤みを帯びた、柔らかな夕方の光に浮かび上がる人見先生のシルエット。人見先生の日常が垣間見える詩である。

なんと！！この時、人見先生 86 歳！！

86 歳という到達の域に達しているはずなのに、人見先生にとって思い描く理想は、まだ道半ばであり、未完成である。

ご自分のことはこの次で、いつも学生、学校、日本のこと・・・・・・・・・・。
人見先生の穏やかで、思慮深く、温かいお人柄が忍ばれる。

【学園の日々・学生を歌う】

「木かげ」、「湘南寮」、「朝礼だ」、「体育祭」、「卒業生におくる」、「いざさらば」、「あと三つき」「わが学生」、の8篇をとりあげた。「あと三つき」と「わが学生」を紹介する。

あと三つき

朝が明けた
正月だ、
あと三つきで卒業だ。

親をはなれ
師に別れ
たった一人で独立だ。

永い年月ためて来た
元気を出し
頑張ろう
びくびくせずに健やかに。

年が明けた

卒業まであと三つき、学生の心模様がわかる人見先生だからこそ、学生目線で表現できた詩である。「どこに出ても恥ずかしくない社会人になれるよう、長い年月をかけて十分な教育を受けてきたのだから、安心して社会に出ていきなさい。」と、人見先生に背中を押されているような気持ちになる詩である。

わが学生

わが校の学生は思う。
 花は自らの特長にしたがった
 咲くべき時にさき
 ちるべき時に散り
 咲いたからといって誇らず
 散ったかといって悲しまず。
 雨がふれば雨にぬれ
 嵐がふけば嵐にもまれ
 身を切るような寒さにも
 照り付ける暑さにも耐えて
 咲くべき時が来れば咲く。
 世の中の地位を求めず
 栄誉も報酬もねがわず
 黙黙として、営々として
 命の赴くままにしたがい
 咲くべき時が来れば咲く。
 私どももその花のように

どのような時にも心騒がすことなく、他者への思いやりの心を持って、自らに恥じない生き方をする。その自らを磨き上げて世の光になる。その小さな光が集まって大きな光となって世を照らす。学生に仮託してわが学園の精神を詠んだこの詩は、「世の光となろう」を想起させ、その小さな光になれるように努めたいと強く思わせる。このような先輩方の姿が世に評価されて、現在の就職率の高さにも反映されていることを改めて思う。

◆「アメリカ東海岸ボストン・ニューヨーク研修旅行8日間」報告（写真展示）

◆「ワーキングネットワーク報告」

◇小学校教職員ネットワーク報告

「これから小学校教員になるみなさまへ」

講師：東京都調布市立調和小学校校長 山中ともえ氏

◆ワーキング秋祭り

◇小学校教職員ネットワーク報告

「新しい道德教育の課題と展望」

ー学校を生き生きとした人間教育の場にしようー

講師：昭和女子大学大学院教授、現代教育研究所所長 押谷由夫氏

◇中学・高等学校教職員ネットワーク報告

「協同的な学び合いによる授業研究ーアクティブ・ラーニングの演習を通してー」

講師：神奈川県立七里ガ浜高等学校教頭 後藤文子氏

◇ビジネスネットワーク報告

「図書館ツアーとビブリオバトル」

講師：昭和女子大学図書館次長 高橋典子氏

◇『食』関連ネットワーク報告

「病院の患者さんへの食事提供の工夫」

講師：東邦大学医療センター大森病院管理栄養士 長嶋泰子氏

講師：富士整形外科病院栄養士 菊地裕美氏

[バザー]

全国 50 支部（地方の名産品）、卒業生 11 グループ、同窓会本部（同窓会グッズ、手作り品）によるバザー、子どもゲームコーナーと、会員の皆様のご協力により、多くの来場者を迎えることができ、大盛況のうちに幕を閉じました。バザーの売上げは光葉同窓会奨学金になります。有難うございました。

[2015 年 日本建築学会大賞受記念 「平井 聖先生のスケッチブック」]

秋桜祭開催日にオープンカレッジ 4 階403教室で開催いたしました。

多くの方々が来場され、平井先生のすばらしいスケッチを鑑賞しました。

■広げよう光の葉

郭 璐さん

2013 年 生活機構研究科人間教育学専攻修了

2009 年中国から留学生として日本に来ました。中国の大学で日本語を四年間勉強したので、卒業しても日本語の勉強を続け、そして直接日本の文化を感じたいからです。昭和女子大学大学院に入学し、道徳教育の分野で日本と中国の比較研究をしました。授業やゼミの時に、先生方から色々な知識を教えて頂き、皆さんと一緒に討論し、とても賑やかで充実した時間を過ごしました。授業のほかに、先生方と学会に参加したり、日本や海外の学校に見学に行き、交換授業を直接受けたりとても貴重な体験をしました。それによって、道徳教育や自分の研究内容について深く理解することができ、自分の視野も広がりました。学校以外の時間で、日本と中国の祝日に、学校の皆さんとホームパーティーを開き、異なる文化を日常的に身近なものとして楽しみ、教科書では教えてくれないことをいっぱい学べました。外国人として日本での生活にとっても役に立ちました。

今の仕事内容は、携帯ショップでの通常手続きから契約まで業務全般です。ショップの立地によって、中国人のお客様が半数以上なので、中国語での対応が多いです。日本にいる日本語がしゃべれない母国（中国）の人々にとって必要とする存在ということが自分でも感じられるので、とてもやりがいのある仕事だと思います。もちろん、日本人のお客様も対応します。接客する時に言葉に色々気をつけなければならないことがあります。昭和女子大学で身につけた敬語の力がとても役に立ちました。二ヶ国語が話せるので、どのようなお客様が来ても基本対応できるので、売り上げも常に上位です。業界の複数の資格を短期間で獲得し、今年7月、年に一度の決算会で優秀スタッフに表彰されました。

昭和女子大学に入学し、大学で出会った方々のおかげで、自分が日本で一人前の社会人になりました。この出会いを大切に、日本での生活を引き続き頑張っていきます。

End

大学からのお知らせ

【文化研究講座】

- 12月3日(木) パノハ弦楽四重奏団
- 12月10日(木) ロジェ・ワーグナー合唱団 “珠玉のクリスマス&ゴスペルソングス”
- 12月17日(木) 映画鑑賞会「麦子さんと」

*公演に関するお問い合わせ：人見記念講堂事務室 電話 03-3411-5120

【お知らせ／公開講座・イベント】

- 現代ビジネス研究所研究セミナーのご案内

「女性が活躍できる社会の実現に向けて—昭和女子大からの提言—」

日時：2015年12月12日(土) 15:30~17:00

会場：昭和女子大学 80年館 6階オーロラホール

参加費：無料

*詳細、申込み方法は 昭和女子大学 HP お知らせ／公開講座・イベント参照

- 早川書房と昭和女子大学の学生が共同で制作した小説レーベル第2弾発刊

アレックス・モレル著『ミルキーブルーの境界』が11月20日刊行

学生が担当したのは、レーベル名とロゴマーク、キャッチコピー、作品タイトル、表紙デザイン、あらすじ紹介文等多岐にわたり、巻末には学生有志5名の座談会が収録されている。

*詳細は昭和女子大学 HP お知らせ／公開講座・イベント参照

- ワイン試飲会のご案内

「世界の KOSHU、SHOWA で解禁」

～山梨3大ワイナリー 甲州ワインのテイスティングとレクチャー～

日時：12月9日(水) 19:00~21:00

場所：昭和女子大学 学生食堂ソフィア

参加費：3,000円(税込、当日徴収) 先着50名まで

申込み方法：E-mail、電話、FAXのいずれかで①氏名②連絡先をお知らせ下さい。

E-mail：opencl@swu.ac.jp

FAX:03-3411-5130

電話：03-3411-5100 (火・金・土曜 10:00~16:30 / 水・木曜 10:00~19:00
日・月・祝休み)

学園の冬季休暇は以下の通りです

同窓会事務局 12月23日(祝)~1月7日(木)

大学キャンパス 12月23日(祝)~1月7日(木)

学園年末年始休業 12月26日(土)~1月5日(火)